

子育て塾

子ども（0～3歳）部屋の環境について

平成29年1月10日

子育て支援センターバンビーニ広場

講師：根本 てる子

子どもの活動範囲がひろがってくると、自分の思うことを自由に表現して、自由に活動したい子にどんな適切な環境の準備をしてあげるとよいのでしょうか。そこで今回は子どものサイズに合った備品の事やそれらを準備できる大人の存在の重要性を学びました。

4つのエリアは変わらないが内容は発達段階によって変わっていく

| | |
|---|---|
| 3か月くらい 腕の筋肉が発達し、見るだけでなく、見たものに触れようとして、握ろうとするようになる。 いらなくなるもの 見るためのモバイル、ムナリモバイル、ゴッピモバイル 追加するもの 見るための物や、ガラガラのように置く物 | 5か月くらい 頭ばい(ずりばい)、お座りができるようになる。離乳食が始まる。 追加するもの 離乳食用のサークルと椅子、オムツ、オムツ交換台、手すり、歩行器・階段 排除するもの ずりばいを妨げる、電化製品や家具類、カゴなど、口に入ると危険な小さい物 |
| 歩けるようになったら いらなくなるもの 歩行が安定しない以上を考慮 キヨスクとバー、手すり、歩行器、重いスツール、登り台 追加するもの 言語教具 | 歩行が安定したら いらなくなるもの 階段 追加するもの 収納たんす、おむつ換え用のベンチ、日常生活の練習の用具 |
| 2歳半前後 追加するもの 感覚教具 | 物的環境としての用具類 必要な視点 <ul style="list-style-type: none">子どもの発達の段階に見合った用具類子ども達の発達段階を知る |

電子ベビーシッターへの注意
赤ちゃんでもテレビに集中して見入る姿が見られる。
電子音や、此の刺激に反応しているだけで発達に貢献する姿ではないことを知る。
テレビは否定されるものではないが、優先順位としてテレビ以上の環境と預け方が必要。



「発達がアップすれば今まで使っていたものが不要になることもあるので、そのこのチェンジにも目を向けましょう。」

「子どもにどこで何をするのか、位置を決めてあげることは、いつも同じところで同じ事が行われる経験ができるので、安心と秩序が身についていきますよ。」



「さあそれでは、ご自分のお子さんに応じた家庭環境を考えてみましょう。2DKでも0～3歳までの発達に合った良い環境ができるとおもいますよ。」お母さまたちはそれぞれに、自宅の環境を書きだして、先生方に質疑応答をして充実した時間が過ごせました。

*次回は2/14(火)「子育て会議」です。